

国際交流講演会実施報告書

2025年4月14日
商学部教授 石黒太郎

日時： 2025年4月2日（水）15:00–17:00
会場： 明治大学駿河台キャンパス、リバティータワー11階 1115 教室
講演者： リズ・ハーバート・マカヴォイ（Dr Liz Herbert McAvoy）
スウォンジー大学名誉教授（Professor Emerita of Medieval Literature,
Swansea University） ブリストル大学名誉研究員（Honorary Senior
Research Associate, University of Bristol）
題目： ‘Countering the Violence: Anchoresses, Female Spirituality and the Liter-
ary Culture of the Welsh-English Borderlands in the Middle Ages’
言語： 英語（通訳なし）
参加者数： 17名

4月2日、明治大学中世英文学テキスト研究所の主催で、スウォンジー大学名誉教授 Dr Liz Herbert McAvoy の講演会を行われた。McAvoy 先生は中世英文学のなかでも特に宗教文学研究において、ジェンダー論の視点から学際的な問題意識を喚起し、21世紀の西洋中世文学・文化研究に一石を投じた研究者である。その業績は多岐にわたり、14–15世紀の女性神秘家ノリッジのジュリアン、マージェリー・ケンプに関する著書、*Authority and the Female Body in the Writings of Julian of Norwich and Margery Kempe*（Cambridge, 2004）や中世末のヨーロッパの靈性に影響を与えた隠修女に関する著書、*Medieval Anchoritisms: Gender, Space and the Solitary Life*（Cambridge, 2010）に加え、*A Revelation of Purgatory: A Critical Edition and Facing-Page Translation*（Cambridge, 2014）、また近著 *The Enclosed Garden and the Medieval Imaginary*（Cambridge, 2021）によって、中世文学研究のみならず隣接領域の研究にも大きく貢献をしている。

当日の講演では、中世イングランドとウェールズとの境界地方に生き、隠修生活を行った女性たち（anchoresses）に焦点を当て、隠修女の靈性がいかに境界地域で著作され、流通した書物とつながり、当時の社会と文化に影響を与えたかが検討された。

講演は隠修生活の歴史的・文化的コンテクストの紹介から始まった。キリスト教会の改革が推進された12世紀末より靈的刷新を求めて女性たちが行った「隠修」という信仰生活は大陸から広がり、13世紀にはウェールズ・イングランド境界地方にも及んだ。女性たちは教会（礼拝堂）に隣接する庵室で暮らし、神への祈りと讃美に生涯を捧げるなか、「憐れみ」や「共感」と云った感情をキリストへの崇敬のなかで育み、さらに、地域の人々の助言者、また書物

文化の担い手ともなった。このような基本情報を確認の上、講演では、この時代に流通したテキストが、当時、同地域で展開していた非道且つ攻撃的な軍事行動に異議を唱え、さらに、「処罰と暴力」に代わり、「憐れみ」や「共感」こそが人間性の回復に寄与すると云う言説に支えられていたことが検討された。具体的には、*Ancrene Wisse*, 隠修女 Annora de Briouze と Loretta de Briouz 姉妹や Katharine de Audeley、また、*Fouke le FitzWaryn* や St Winifred/Gwenfrewy に関する複数のテキストが紹介され、さらに、*Sir Gawain and the Green Knight* と 13 世紀末、ドイツはザクセン地方の修道女、ハッケボーンのメヒティルドが著し、大陸で広く流通した *Liber specialis gratiae* との比較分析が行われ、両テキストで共有される表象に新鮮な解釈を与えられた。

講演に続き、活発な質疑応答が行われ、広い年代に亘って熱心なレスポンスを得ることができた。以上、中世英文学研究において、近年のジェンダー研究の理論と実践を駆使し、中世英文学研究に新風を吹き込んできた Liz Herbert McAvoy 名誉教授による本講演は、「中世英文学テキスト研究所」の所員はもとより西洋中世研究に従事する幅広い研究者を啓発した。

年度初めの開催であったにもかかわらず、17名の参加を得、知的刺激に富んだ講演会が和やかな雰囲気の中に終了したことを報告いたします。

